

医芸俳壇



長野 有泉 七種

極寒の月光は地に親します
談判の腕組みなほす余寒かな
山川の雪にこりしてとどろけり
一山の夜明けの雲に初音かな
薄氷の未練がましく消えゆけり

東京 篠田那珈

二月号会誌計報欄に同期生三名
密葬四十九日忌済しと二月半は
戦死せし日時忘れず供花す寒椿
大寒やポットの湯煙りまつすぐに
夕刊に春一番と大活字

青森 秋霧 朝光

亡き父を語る人居て秋の月
ふるさとにわが山河あり秋るる
縄文の六本柱秋晴るる
見えぬ手に引かれ分け入る花野かな
夕雁の光となりて尾根越ゆる

静岡 岩本 漂人

タイにて五句
オオサイチヨウ乾期の空を帆翻す
短日や森に響きしオニカツコウ
大いなる日はアジサシを赤く染め
密林の木の葉と化してヒメフクロウ
冬羽のチャガシワカモメが磯を埋め

新潟 中村 雄彦

降り続く雪の深空や南恋ぶ
甘酒を吹きつつ記す旅日誌
眉顰め口開け歩む雪の道
稚児のごと子守の女蜜柑食う
肝もある鮫鱈の鍋探りつつ

千葉 秋葉 琢磨

安房の国ぐるりと巡り水仙郷
鯨喰み房総の花多数買ふ
大地震人集りて春の町
老梅に瓦飛び来る大地震
啓蟄や妊婦は強し避難民

東京 小南 丁字

陽が創くる流れの氷花の造形美
うたた寝を轉り覚ます牡丹苑
ザリガニを釣る三四郎池童ら緑
横浜港波と対話の春の椅子
凜として朝顔一輪初日射す

長野 檜本 勝彦

初ドラマ憎まれ役のおやし殿
繭玉や乳離れして風呂びる
厄投げやどよめき消えて闇深し
ぐーぱーぐー寒中体操空着し
ラガー征く女傑の応援悔ゆるなし

東京 初芝 澄雄

花咲いたしげくと見る寒桜
紀尾井坂くろく輝くモチの実が
清水谷紅葉残りぬ冬の日に
白い花日本晴に辛夷かな
古里の庭に開きし江戸の梅

兵庫 廣 辻 逸 郎

銀杏に埋もれし庭上堂無人
鎮魂の鐘冬空にルミナリエ
父を越す酒量の息子等上鍋囲む
雪たるま指す予報士の薄着して
本命のリボンの小函春の雪



東京 福富 清子

青森 福士 盛大

スカイツリー雲を貫き春霞
二日酔内臓潤すしじみ汁
草荒れし売れぬ売地や黄水仙
春の海裸足で走る子等の声
たんぽぽや息子と久しボール蹴る

東京 福神 規子

涅槃図の月がもつとも孤なりけり
薄氷のごとき片恋なりしかな
まだ何も画かぬキャンバス水温む
うらうらと影うらうらと水草生ふ
赤椿にはまばたきをせぬことに

東京 福富 清子

退く波を蹠に春を惜しみけり
雪柳胸中山河のひとつすみに
親を泣くか佐保姫恋うか山鳩は
飽食とメールの御世を土筆かな
地の塵を雲居に放て揚雲雀

青森 三上 忠英

紅梅や見納めという母を背に
地方紙にくるむ筈届きけり
鳥帰る過疎の村より出稼ぎに
冴え返るいまだに余震続くなり
水温む修理終えたる水車

東京 靱木 秀穂

咲き満ちて万朶の桜ゆるぎなし
我よりも先に乗り込む落花かな
落花ほろほろこの閑かさは浄土かも
寄りそひつ離れつ揺るる花筏
奔流のごとし疾風の花吹雪

広島 渡辺 晋山

姪に逢ひバレンタインのワインかな
雪おんな温き妖気に負けにけり
啓蟄に地下の店屋も混みあへり
花を待つデスマスクあり二三忌
前進座われも八十路ぞ躑躅燃ゆ
(前進座創立八十周年祝賀会にて)